

登録コード	EKD01900	開講年度	2026					
授業科目	メンタリングの理論と実践					担当教員	伏木 久始 他	
英文授業名	Learning the theory and practice of mentoring					副担当	谷内 祐樹	
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	2年	
講義室				授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	該当							
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】	
	26EAカリ, 25EAカリ							
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点					⇔	学校現場で起きている人間関係に関わる問題を、より広い視野から捉え直し、それぞれの立場の悩みに寄り添い、組織のあり方・構造の問題として分析する見方・考え方ができる。	
	26EAカリ, 25EAカリ, 24EAカリ							
	協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力					⇔	・職場内の人間関係や同僚性の向上のために専門的な知見を身につけた上で、自分に出来るメンタリングを実践していく意欲をもてる。	
(2)授業の概要	この授業は、現職教員の大学院生を対象としたコース科目である。勤務校の教育実習生ないし若手教員等を対象とした助言やサポートを適切に行うための関わり方や自分のメタ認知を深める意義を学ぶ科目である。講義によりメンタリングの理論を学び、受講生それぞれが職場等におけるメンティを選び、長いスパンでそのメンティとの関係性を記録し続け、自分自身のあり方を省察することで、メンタリングに必要な考え方、接し方、関係のつくり方について学び合う機会とする。 自分自身がうまくフォロー出来ていない若手教員、同僚の中で苦手な教員、チーム演習のグループの中でウマが合わないストレートマスターなど、メンターとして順調に自分が機能していないと思える関係性の相手を一人選び、自分のこれまでの取り組みや、相手から受ける違和感などをさし支えない範囲で告白しつつ、自分に今からでも出来る取り組みについて考える。メンティとの関係性の経過を次の通り記録する。 1) 現状 2) 自分が努力したこと 3) 自己評価（その結果の考察） 担当教員が小学校・中学校・高等学校での実務経験を活かして講義を行います。							
(3)授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：メンタリングの理論 第3回：フィールドレポート(事例1)－授業場面－ 第4回：フィールドレポート(事例2)－学級指導－ 第5回：フィールドレポート(事例3)－保護者対等－ 第6回：協同リフレクション 第7回：まとめと「ふりかえり」 【遠隔等】							
(4)成績評価の方法	・講義の中での学生同士のディスカッションの内容：30% ・最終の提出課題レポートの内容：70% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(5)履修上の注意	・2年次に（高度教職開発コースの学生のみ）受講する科目である。 ・受講生の状況等により、遠隔等での授業に変更する場合がある。 ・この授業に関する連絡事項等は原則としてeALPSシステムを使って行うため、登録メールアドレスに着信するメール内容を随時確認すること。 ・メンタリングの実践に伴い、適宜個人的な相談やカウンセリングの機会をとるので、希望があれば授業担当者にメールで申し込むこと ・メンタリングに臨む状況やメンティに関する個人情報の扱いには細心の注意を払うこと。							
(6)質問,相談への対応および連絡先	・原則として、メールでアポイントメントをとっていただければ相談等の時間を確保する。 【伏木研究室 hfusegi@shinshu-u.ac.jp】 【谷内研究室 yachi@shinshu-u.ac.jp】 ＊新年度に他の担当教員の連絡先（メールアドレス）も案内することになる。							
(7)成績評価の基準	「卓越している」：メンタリングの理論を十分に理解し、過去の経験の中から自分自身の課題を見出し、適切なメンタリングの方法をクライアントに応じて適用させようとしている。 「かなり上である」：メンタリングの理論を理解し、過去の経験の中から自分自身の課題を見出し、適切なメンタリングの方法を適用させようとしている。 「やや上にある」：過去の経験の中から自分自身の課題を見出し、クライアントに応じて適切なメンタリングの方法を考えている。 「水準にある」：過去の経験の中から自分自身の課題を見出し、適切なメンタリングの方法を自分なりに考えている。							
(8)事前事後学習の内容について	・予告された次時の授業テーマに応じて、自分の経験談を語れるように資料を作成しておくこと。 ・授業におけるディスカッションに関しては、その記録にコメントをつけ加え、授業テーマについての考えをレポートにまとめて提出すること。							
【教科書】	指定しない							
【参考書】	授業の中で随時紹介する。							